

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079200542
法人名	有限会社 添田商産
事業所名	グループホーム かがやき
所在地	福岡県田川郡川崎町大字川崎112番地
自己評価作成日	平成26年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成26年11月25日	評価結果確定日	平成27年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「残存能力の維持」を目標に掲げ、個人の意思の尊重と現在の生活履歴を重要視しながら機能訓練を計画し、1日を穏やかに安心して、過ぎて頂けるように努力しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人代表者の地元でもあることから、地域との根付いた関係性の中にあり、グループホームかがやきは、開設して11年目を迎えている。運営推進会議での働きかけを通じて、中学生が職場体験に訪れたり、行政や地域包括支援センターとの連携により、地域の困難事例への対応が行われる等、地域福祉の拠点としての活動が行われている。また、年に複数回、行政主催の人権研修や認知症疾患医療センターでの勉強会に参加する等、認知症ケアに向き合いながら、本人本位に基づく日々の実践に向けて、取り組みを重ねている。長期に入居されている方も多く、少しずつ重度化へと移行する中で、個別の「暮らし」を尊重した細やかな配慮が確認できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り等で理念に基づいたケアが維持できているか又、共有できているかいつでも意見交換できる場を設け、実践しています	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた運営理念や指針を掲げている。毎年、研修計画の中に位置付け、原点に立ち戻る機会をもっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加、清掃活動等、日常的に交流しています	近隣の子どもの遊び場として庭を開放し、トイレも使用できるようにしている。運営推進会議を通じた働きかけにより、中学生がボランティアとして訪れたり、その後の体験発表に向けた経緯もあった。福祉まつりに出展する作品を制作する等、地域の行事にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事への参加と、事業所での作品等の展示などや地域の憩いの場としての園庭の解放及び、手洗い等の貸出をしています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況、生活履歴等、現在の地域の情報などを運営推進会議で意見交換しています	運営推進会議は、地域代表、有識者、地域包括支援センター職員の出席を得て開催されている。委員による提案から、中学生がボランティアとして訪れる機会もあった。議事録を閲覧可能としている。家族の参加する機会が少なく、継続した働きかけが期待される。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者と連携を電話や面談で定期的に行っています	町役場や地域包括支援センターとの連携を図り、地域の困難事例等への対応について、協議が行われている。また、ケースワーカーとの連携も密にし、相互訪問も含め、情報共有に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの作成や、研修会に参加し、身体拘束の意味やその害をいつも考え、研鑽し実践しています	研修計画の中に位置付け、継続して意識を高める機会を持ちながら、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。日中の施錠は行われていない。居室の環境整備等、個別の状況に応じた工夫も見られる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、インターネットでの情報をもとに、会議を開き、職員間での言動にも注意し、防止に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者のご家族や、町の担当者、福祉事務所の担当者と連携をとり、権利擁護に関する制度の把握に努めています	外部での人権研修の中で、権利擁護に関する制度について理解を深め、内部での伝達に努めている。家族や地域に向けた情報発信にも期待したい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、時間をかけ、十分説明し、納得して頂き、契約を結んでいます		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者のご家族が、いつでも意見ができる雰囲気づくりに努め、サービスの向上に実践しています	年に1回、家族交流会を開催し、参加率も高い。交流会後にはアンケート調査も実施されている。日頃から意見の言いやすい関係作りにも努め、直接の申し出を受ける機会も多い。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回の会議を設け、又個別に相談を受けています	年2回、全体会議を開催している。また、懇親会を企画し、コミュニケーションを深めている。職員の定着率が高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に相談に応じたり、年齢や家庭環境等も配慮した職場づくりを目指しています		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢は採用の判断材料にしていません又地域や家庭での役割を理解し、自己実現の権利も保証されるように配慮しています	職員の採用にあたり、年齢や性別等による排除は行われていない。それぞれの家族状況等に配慮しながら、勤務時間帯やシフトへの柔軟な対応も行われている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に2回の人権学習に全職員が参加しています	行政等の主催する人権学習に持ち回りで全職員が参加していることが、研修記録から確認できる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	勤務調整をし、内外の研修には積極的に参加しています		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多職種の勉強会の参加や、他施設のイベントへの参加、地域包括主催の勉強会での交流等、サービスの質の向上に努めています		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の要望を傾聴し、決して、孤立することの無いように、利用者寄り添い安心を確保できるように努力しています		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間をかけ説明し、時には、ご自宅にお向き納得して頂き関係づくりに細心の注意を払っています		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに入居するのではなく、利用者の状態に応じて他サービスへの紹介等もしています		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の残存能力を活かせる努力をし、共に暮らす家族のような、関係性を築いています		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院を同行したり、意思決定は、ご家族に一任し、生活面でのサポートも時にはお願いし、利用者を支える関係性を築いています		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話連絡への配慮、イベントへの参加等できる限り関係性が途切れることの無いように支援しています	旧知の方と会うために相互に行き来したり、入院先への御見舞いや理容室の利用等を支援している。また、家族とのお墓参りや地区の神幸祭を見学する等、関係性の継続に向けた支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやリハビリでの位置や、声掛け等孤立することの無いように配慮しています		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時での、お世話や相談も積極的に取り組んでいます		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向の取り入れ、ご家族とも相談し、本人本位に検討し、できる限り実践しています	安定している職員体制の中で馴染みの関係性が築かれ、日常の発言や表情の変化、仕草等から気づきを得ながら、思いや意向の把握に努めている。主観的情報が残された日々の記録やセンター方式の活用を通じて、共有を図っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や友人、知人等から聞き取りを行い本人の生活環境や暮らし方の把握に努めています		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族や、かかりつけ医院からの情報提供をもとに、心身状態や有する力等の現状の把握に努めています		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が望まれること、ご家族の望まれること、課題とケアの在り方と見極めを重視し現状に応じた介護計画を作成しています	日々のモニタリング実践記録表が作成され、計画に基づいた支援を確認している。毎月、「生活の様子」として、家族に開示している。	日々の記録やセンター方式の活用等が計画作成には反映されておらず、本人本位の視点を確保しながら、実践されている心身機能の活用や暮らしの継続に向けた支援を計画の中に位置付けていくことが期待されます。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	病状の進行や、心身状態の気づきを毎日記録し職員間で共有し、介護計画の見直しに活かしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院時のお世話や、病院への付き添い、行政機関への手続きのお手伝いなど、臨機応変に対応しています		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括や各行政との連携、病院等のリハビリの同行など時と場合に応じて対応しています		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は希望を取り入れ、入院の際は、別の診療所を紹介して頂いたりしています	これまでのかかりつけ医との馴染みの関係性を尊重し、基本的に職員が受診を支援している。受診報告書の作成や必要に応じて家族とも同行し、情報共有を大切にしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医院の看護師と電話やfax等で伝達し受診の時期を指示して頂く事もあります		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に、2日に一度は出向き病院関係者と連携をとり早期で受け入れできる体制を整えています		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と何度も話し合いをもち地域の関係者や医療施設とも相談のうえ、支援しています	入居の際に、重度化や終末期に向けた事業所としての方針を説明し、意向を確認している。また、日々のかかわりやセンター方式の活用を通じて、意向の確認に努めている。家族や医師との話し合いを重ね、方針を共有している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の訓練を受け、救急救命の受講もしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を全職員が実施し、地域の有識者等にも協力体制を依頼しています	消防署の協力を得ながら避難訓練を実施している。運営推進会議も活用しながら、地域との連携を確認している。飲料水や非常食を備蓄し、災害時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴を重視し、個別のプランをたて、プライバシーを重要視しながら言葉かけや対応をしています	新規採用時には、羞恥心やプライドへの細やかな配慮について周知を図っている。排泄ケアの際の声かけや対応には特に留意し、職員教育を行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	心身状態や精神状態を考慮し、自己決定ができる雰囲気づくりに努めています		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	心身状態を考慮し、気分のすぐれない時には外出をしたり、希望にできるだけ沿った対応をしています		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の好み等、定期的な整髪など、おしゃれが楽しめるように支援しています		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の際、できるだけ、個別の希望を取り入れるようにし、食事の準備や片づけを共に共同で行っています	嗜好やバランス、食材の彩り、食器等に配慮しながら、食事を提供している。白菜漬けや梅干し、干し柿等をともに仕込んだり、嗜好や疾患に応じた代替品の提供等を支援している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療機関からの情報をもとに水分量の調節や食事の栄養バランス、禁忌物など注意を払っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、及び毎食後の口腔ケアの実践はもとより、義歯の洗浄口腔内の洗浄も職員の付き添いのもと適切なケアをしています		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンをつかむ努力し、時間誘導を実施しています	個別の排泄状況をチェックし、日中はトイレでの排泄を基本として、個別に応じた支援を検討している。立位保持や排泄動作の安定に向けて、機能活用に向けた働きかけを行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸内環境が整うような食材を中心に、献立を作成し適度な運動の取り入れを実践して予防に努めています		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	概ね、曜日は指定していますが、臨機応変に対応しています	週3回の基本的な入浴スケジュールは設定しているが、希望や状況に応じて、それ以外の日にも柔軟に対応するようにしている。拒否される方にも、タイミングや声かけを工夫し、無理強いとならないように配慮している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休息したり、消灯時間は設けず、安心して眠れるように支援しています		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医からの情報をもとに、心身状態に応じてその都度指示を仰ぎながら、服薬の支援をしています		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個人の得意分野が活かせるように支援しています(裁縫、料理、歌、運動等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なじみの理容室に出かけたり買い物やドライブに出かけたりと外出の機会を設けています 又、ご家族とお墓参りの為、ホテルに宿泊されたりとその時に応じてその支援をしています	かかりつけ医への受診を外出の機会としてもとらえ、個別の買い物等にも随時対応している。また、家族の来訪する機会も多く、外出や外泊をサポートしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	時折買い物に出向き、支払い時には手助けをしています		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて手紙の差出の手助けや、電話等も自由に使用して頂いています		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間を広く清潔に保ち、時には目隠しを置き、混乱を招かないような配慮をしています	共用空間は、季節感ある手作り作品や切り絵が飾られている。その都度、テーブルや椅子の配置を変更しながら、居心地良く過ごせるよう配慮されている。個人の暮らしが尊重され、自由に行き来する方の姿も見られた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子の配置場所を変えたり、2～3人で雑談できる場所を、設けています		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ安心して暮らして頂けるように元の生活の再現を心がけています。	箆笥や椅子、テレビ等、暮らしの継続や居心地の良さに配慮し、プライバシー空間としての居室作りを支援している。個別の状況に応じて、動線の確保やリスク軽減に向けた配慮も行われている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手洗いには電気を点灯し、各居室にはセンサーを設置し危険のない、居室空間のお手伝いをしています		